

雄山高校 1年 細川優花

この記事は、マラウセンという十八歳の少女が難民の少女たちのために学校を開設したという内容の記事です。私は記事を読んで、私と同世代の人が学校を開設できたのはすごいことだと思います。また、マラウセンという人はどうして学校を開設することか、どうして学校を開設したのか、ということをや、どうして学校を開設したのか、ということを疑問に思いました。そこで私は、マラウセンとはどういう人なのかを調べてみました。調べた結果分か

たのは、マラウセンはマラウセン・ユース・サイ・ンは国連でスピーチをしたということ、スピーチがあることなどが分かりました。国連でのスピーチは一人の教師、一人の本、一本のペンでも世界を変えられるという題でした。このスピーチを聞き、力強いメッセージがたくさん込められており、銃撃に遭い命の危険を感じても、声を上げ続け、大きい勇気を持ってたことかすばらしいなと思



いましました。そして、この場でマララさんがお  
 っしや、たゞ教育こそがただ一つの解決策で  
 あると、という言葉が、学校開設にもつなげられ  
 のだと分かることか、でもしました。さらに、私  
 はマラララさんに「いつまでも知りたくはない  
 わたしはマララ」という本を詠みました。そ  
 こには、マララさんのほろろやマララさんの  
 考えなどがみられます。私と同世代の人が  
 強い気持ちや勇気を持って、発言をしたり行動  
 をしたりして、いることは、私には考えられな  
 いことであつたし、私には絶対でまないこと  
 なのので、本当にすばらしい人だと感じること  
 が、でもしました。どんな苦しい事があつても決  
 して負けない聲は、私のような世代の人や女  
 性も、男性もお手本にしていくべきだと思ひ  
 ました。

と、ここで、私はマラララさんに「いつまでも  
 志望したか、いろいろ日本と比べて気付いた  
 点があります。日本は先進国であり、食料は  
 輸入して、いるものが多く、食べ料に困らな



ことがないという点です。ま、とほとんどの日本人は明日が来て、明後日が来ると思っています。けれどもマラソンやマラソリカに住んでいる人々は明日が来るのか、いつ自分の命がなくなるかわからない状況で生活していると思います。他にも義務教育があるかないかの点です。日本は小学校から中学生までの九年間に義務教育があります。また女の子は教育を受けられないといったら悲しい差別があります。新聞からも分かるように、どこだけ日本が平和で豊かか、国なのかを感じることができ、改めて日本に生まれて良かったという気持ちになつて、もうこれしかたです。

というわけで、マラソンさんは教育を第一に大切にしてください。またのば他文化や偉人を知ること、他者への理解が広がるからだと感じます。世界に教育の重要性を広めることにより難民の人々の学校開設につながり、女性への教育にも反映されたのは、とてもすばらしいことだ



と思われました。また、日本でも教育問題が  
じめや不登校者が絶えないという問題がたく  
ちんあるので、それが少しでも減らせるよう  
な活動をしたり、教育の見直しをしたりして  
日本の子どもが学校を好きになるようにして  
いくべしだと思います。

